



▲中村取締役社長



日興アイ・アール株式会社
取締役社長

中村 佳代

オープンなコミュニケーション体制で 互いに支え合える職場環境をつくりたい

日興アイ・アールは、SMBC日興証券グループの中核を構成するIRコンサルティングファームとして、1990年9月に設立されました。以来、長年の事業運営で培った経験・ノウハウを活かしたサービスを提供し続けています。

今回は、健康とコミュニケーションが何よりも大切であるとする社長の中村さんに、会社のことやご自身の健康、社員との関係、社員のご家族への思いなどについて、お話を伺いました。

インタビュー日 令和7年2月4日

— 御社はSMBC日興証券のグループ会社として、IRコンサルティングサービスを提供されているということですが、具体的な事業内容について教えてください。

弊社は、企業のインベスター・リレーションズ（IR）活動を支援する専門的なコンサルティングサービスを提供しています。

成長ステージに合わせたIR戦略の策定や、CEOやCFOとのディスカッションを通じた投資家向けメッセージの明確化により、企業が投資家との関係を強化するためのサポートを行っています。

具体的には、決算説明資料や会社説明資料、統合報告書などの投資家向け資料の作成支援を行い、企業の業績や成長戦略を効果的に伝える役割を果たし、決算説明会

や個人投資家向け説明会、IRフォーラムなどの投資家向けイベントを企画・運営して、企業と投資家のコミュニケーションを促進する支援も行っています。さらに、アナリストやメディアとの関係構築、ESG情報の開示支援、株主総会のサポート、海外投資家向けの情報開示支援なども手がけています。これらのサービスを通じて、企業が透明性の高い情報開示を行い、投資家との信頼関係を構築するお手伝いをしている会社です。SMBC日興証券との連携もとても多いです。

— 寒い日が続き、感染症なども流行していますが、中村社長がご自身の健康管理のために気をつけていること、関心があることをお聞かせください。

実は、コロナ禍の時期に病気が見つかって、長期で入

院・手術をすることになった経験があります。それまでは自分は丈夫で健康だと自負していたのですが、忙しさのせいで健診を受ける時期が遅れたり後回しにすることもあり、人間ドックも最低限の項目だけしか受けなかったりしていました。そのため、病気の発見が少し遅れてしまったのです。

他の人に迷惑をかけないように、自分の責任においてやるべきことをやるという考えで仕事を優先し頑張ってきたのですが、病気で入院することになってしまうと、自分の仕事を誰かに任せなければならなくなります。結局、自分が一番したくなかった、皆に負担をかける状況になってしまい、本当に後悔しました。家族や仲間にも心配をかけてしまいました。

年齢に応じて必要な健診をきちんと受けていれば、もっと早く病気を発見することができ、治療も短くてもう少し楽に済んだと思います。いくら忙しいと言っても、健康のことを一番に考え、健診を受ける時間くらいはつくることができたはず。こんなふうに皆に迷惑をかけるのは二度と嫌だと思い、今は健康であるために、仕事を調整して優先的に健診の時間を確保するようにしています。

また、自分が病気をした時、健保組合の事業について知らなかったことが多いことに気づき、皆にももっと積極的に事業内容を知ることが大切だと伝えています。さまざまな補助があると知ることができ、何かあった時に助かりますし、安心して働くことができます。家族に対しても手厚いので、健保組合のホームページを見る習慣をつけて、積極的に情報に触れ有効的に活用して欲しいですね。

— 病気を経験されて、健康の大切さを再認識されたのです。社員の皆さんには健康管理についてどのように話されているのですか。

健診や人間ドックは仕事より優先して必ず定期的に行うこと、そして体調が悪い時は無理をせず、すぐに病院を受診すること。予防が何よりも大事なので、うがい手洗い、水分補給など、自分で意識して日常できることはやって欲しいと機会があるたびに話しています。また、ご家族の健康も大切です。共働きの家庭も多いので、ご家族の病気は生活を大きく変えてしまう可能性があります。だからこそ、ご家族の健康のことも大切に考えて欲しいです。

自分やご家族が病気になった時は、会社の対応として、管理職を中心にしっかりとチーム運営を行うことが大切です。つまり、お客さまに迷惑をかけず、病気になっ

た人や病気のご家族がいる人に無理をさせないよう、お互いさまという気持ちで快くフォローをしていく協力体制をつくることです。忙しいから具合が悪いと言にくい、家族の病気で休みにくいという状況は極力避けたいと思っていますので、風通しのよい職場づくりを目指しています。

— 風通しのよい職場とは、ウェルネスの考え方にも通じると思いますが、中村社長にとってのウェルネスについてお聞かせください。

働いている時間は、1日の中で寝ている時間よりも、家族と過ごす時間よりも長いので、その時間がいかに充実しているか、楽しく過ごせているかが大切になってきます。そのためには、職場の仲間たちのことを知ること、そして密にコミュニケーションをとることが重要です。

弊社の業務は、お客さまをよく知ってベストなサポートを提供することですが、それと同じで、相手の状況が違えばフォローの仕方も変わります。まずは職場の仲間同士がお互いに関心を持つこと、そして相手を知るために質問をして答えてもらうことです。そのようにコミュニケーションをとっていくことで、何かあった時に助けてほしいと言いやすかったり、あの人が困っているなどというのがわかるようになります。また、他人事ではなく自分事に置き換えて考えることも必要だと思います。上司や部下など、立場によつての体制は必要ですが、横並びでいいものに関してはフランクでいいと考えます。ですから弊社では、社長室は基本的にオープンで、アポなしでも入ってきやすいようにしています。

職場で皆が常にオープンな状態でコミュニケーションをとることができるになれば、1+1が2ではなく3、4、5と増える可能性が十分にあります。そんなわくわくする体制づくりができれば、活気があって楽しい会社になると思っています。

業務だけではなく、職場にいて人間として成長し、ステップアップして欲しい。そういう環境づくりや仲間を支援しながら、皆が幸せになっていくための道を選ぶように導いていくことが、私たちシニア世代の役割だと考えています。

自分の出会った仲間が前向きに明るく元気に、笑顔で仕事の時間を過ごせるように、私自身がまず見本となるような行動ができるように心がけています。

— 中村社長、本日はありがとうございました。